

有限会社久野板金工業

大桑 匡人さん

Okawa Masato

Profile

金沢市生まれ。内灘高等学校出身。高校卒業後、アルバイトを経て建築板金業の会社に勤務。その後、家業の建築板金業に携わった後、2006（平成 18）年に久野板金工業に入社。県内各地の現場を回りながら、住宅の新築・リフォームを幅広く担当している。趣味はクルマ。



有限会社久野板金工業（金沢市）

1947（昭和 22）年設立。職人一人ひとりが誇りと技術力を生かし、一切妥協することなく、確かな仕事に誠心誠意取り組んでいる。福利厚生の実施など、次代を見据え、職場環境の充実にも注力している。【所在地】金沢市疋田 1 丁目 27 番地 【資本金】300 万円 【代表】久野真吾



「もっちゃん」

仕事のやりがい 職人同士の絆

いろんな職人と一緒に取り組めることがやりがいです。プロ同士、コミュニケーションを深めながら、よりよい家づくりに励んでいます。

建築板金職人までの道のり

◎高校卒業後、1 年ほどアルバイト生活



◎板金会社に就職。2 社で経験を積み、
（有）久野板金工業に

「現在勤める久野板金工業の社長は建設共同高等職業訓練校の同期です。一時、板金の仕事を辞めようかと思い悩んだ時に声をかけてもらいました」（大桑さん）

職人の こだわり

会社ロゴをあしらったパーカー、帽子を身につけると、気持ちも引き締まります

現場での対応力は欠かせません。

パズル好きには向いているかも



たくさんのプロとの連携プレーが家づくりに不可欠。丁寧な仕事を心がけ、次工程を担う職人さんにバトンを渡します



職人技が結集し 住宅が完成する

住宅の建築板金を主力とする久野板金工業（金沢市）の大桑匡人さん。この道 20 年以上を数えるベテランで、大工や設備工事など、現場には顔なじみの職人が少なくありません。

「住宅は 1 から 10 まで一人で作るものではありません。いろいろな職人の力が集まってようやく完成します。私たち建築板金職人もその一人です。」

こう話す大桑さんは、さまざまな工程を担う職人とのコミュニケーションを大切にしています。なぜなら、その意識がよりよい住まいづくりにつながるからです。「例えば、下地から配線が出ている場面を想像してください。そこに外壁を張り付ける時、この線をどこから通して出せば完成時によりよく見えるか、次工程の電気屋さんが作業しやすいかを考えて作業していま

す」と大桑さん。目の前にある建築板金の工程だけではなく、現場監督や他工程の職人にこまめに確認しながら完成形を見据えた仕事に心を砕いています。

寸分違わずにピッタリ その心地よさも魅力

大桑さんの毎日は忙しく過ぎていきます。仕事がひと段落したからと安心する間もないほどに新しい現場を回って作業をしたり、施主や同業者と打ち合わせをしたりと、県内各地を行き来しています。このように、数え切れないほどの住宅を手がけてきた大桑さんでも、「同じ現場は一つ也没有」と言い切ります。

だからこそ、建築板金の仕事には現場での対応力が不可欠。ただ、そのスキルはどれだけテキストをめくっても身につくものではなく、真摯に仕事と向き合い、経験値を積み重ねていくほ

かにありません。

簡単に一人前にはなれないかもしれません。しかし、その分、やりがい大きいのも建築板金の仕事です。「もしかしら、パズル好きの人には向いているかも。建築板金職人は建材を加工し、ピースも自ら作りますし、現場でピッタリとはまった時は心地いいですよ」。大桑さんは仕事の魅力をこう教えてくれました。

一つひとつの現場を これからも全力で

大桑さんがこの業界に身を置くようになったきっかけは、建築板金業が最も身近な職業だったからと言えます。実家が建築板金業を営んでおり、社会人として一步を踏み出す時、真先に思い浮かんだそうです。

そんな大桑さんでしたが、初めて現場に足を運ぶ際は心臓がバクバクだったと言います。なぜなら、「職人の仕事現場とい

うと、言葉少なく厳しい世界を想像していた」（大桑さん）からです。ただ、出会った職人は皆さん、優しい方ばかり。先輩たちに教えてもらいながら、一歩ずつ成長を重ねてきました。「これからも職人同士、力を合わせ、いい仕事を続けていだけだす。優しい笑顔を浮かべ、こう話す大桑さんは、これからも気負うことなく、一つひとつの現場に真剣に向き合っていきます。

